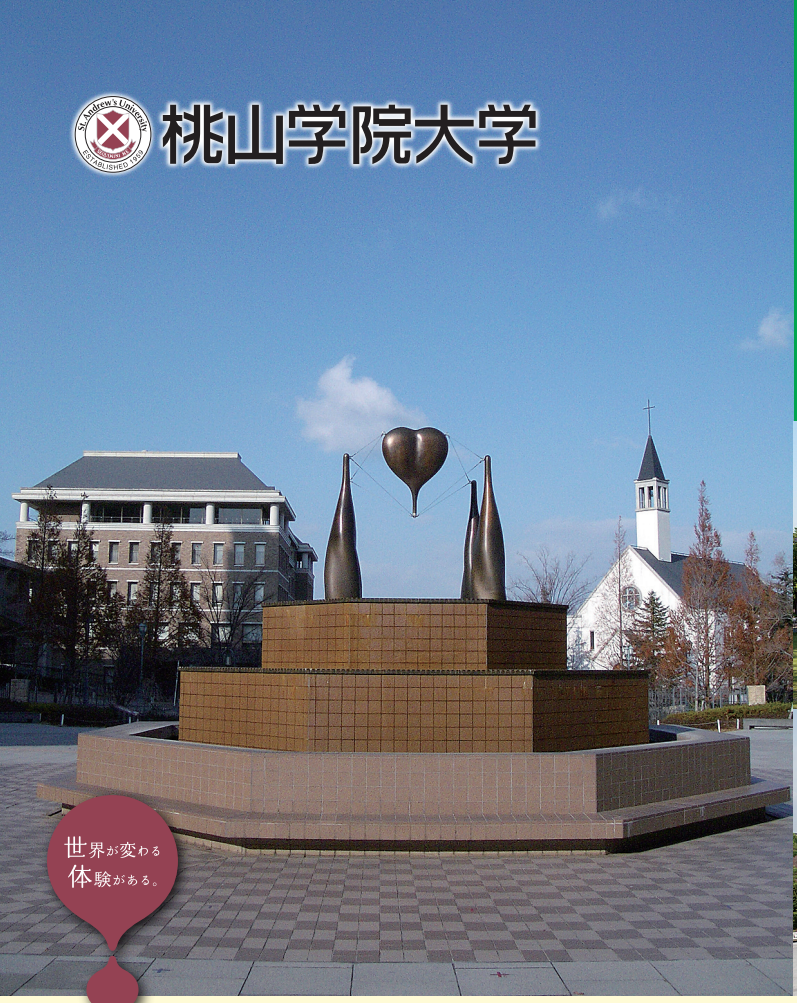
桃山学院大学

FD NEWS

2014.3
Vol.4

Faculty Development



委員長挨拶

全学FD推進委員長
副学長　経営学部教授　**今木　秀和**

日本の大学は、教育改革の真只中にあります。4年制大学への進学率が50%を超え、ユニバーサル段階に達している現在においては、学力・意欲・気質等様々なバックグラウンドを持つ学生を受け入れる一方で、学生の学習の質に対する保証が求められるという難しい時代を迎えているといえます。

「大学設置基準の大綱化」以降、大学改革の焦点は、「研究」から「教育」へとシフトし、「教育」も従来の教授者中心から学習者中心への転換が時代の流れとなっています。こうした中で、大学教育の改革や改善の視点を「学生の学修」に置くことを意識して議論していく必要があります。

私たち教職員は、受け入れた学生達に「なぜ大学で学ぶのか」の動機づけから始まり、「アクティブ・ラーニング」など様々な工夫により学生の自主的で主体的な学びを促し、課外活動や海外研修などの様々な体験を通して、立派に社会人として通用する能力・人格を身に付けた人材として社会に送り出すことが使命であると認識しています。

こうした目的達成のためにはカリキュラム、教育方法や評価方法等の改革が必要ですが、教員による授業改善という狭義のFD活動にとどまらず、授業外での学修支援や受け入れ段階での高大接続も含む広い視野での大学全体の取り組みとして、議論を深める必要があるだろうと考えています。

もくじ contents

■ 委員長挨拶
■ 2013年度授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告
■ SA(スチューデント・アシスタント)・TA(ティーチング・アシスタント)制度活用状況
■ 〈特集〉SAとして上級生から下級生へ伝えたい私たちの「思い」と「やる気！」
■ 全学FD講演会
南大阪地域大学コンソーシアム FD・SD研修とSPODによる合同研修
2013年度全学FD推進委員会
外部機関研修参加
2013年度全学FD推進委員会メンバー

2013年度　授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告

「学生による授業評価」の目的は、授業に対する学生の率直な意見を聞き、学生と教員が協力して「わかりやすく質の高い授業」を作りあげ、教育改革（カリキュラム改革）等を進めていくことにあり、アンケートに期待されることは以下の二つです。

①個々の教員が主体的に「わかりやすく質の高い授業」を形成しようとする活動に資すること。

②学生に授業を真摯に評価する権利を与えると同時に、自らの受講態度を自己評価する義務を課し、積極的に授業に出席し学ぼうとする意識と姿勢を喚起すること。

これらが相互に関連しあって一層の授業改善が進められるものと考えており、多様な学生の意見に耳を傾け、学生とともに「わかりやすく質の高い授業」を作りあげていくことが教員に求められています。

◆2013年度春学期実施状況

実施期間：2013年７月１日（月）～13日（土）
実　施　率：実施対象科目731科目中692科目実施　実施率94.7%
回　答　率：50.8%
所見提出率：42.8%

◆2013年度秋学期実施状況

実施期間：2013年12月９日（月）～21日（土）
実　施　率：実施対象科目884科目中834科目実施　実施率94.3%
回　答　率：45.0%
所見提出率：40.5%

科目毎の授業評価をクロス集計した結果のほか、自由記述については全体的に項目毎に分類集計したものを、本学ホームページで公開しています。（学内からのアクセスのみ可能）

また、今年度より担当教員が学生の実態を把握し、授業の問題点を抽出して授業にフィードバックできるように授業評価アンケートを改訂し、実施しています。こうした工夫により、学生の学習活動に対する自覚と向上を促し、担当教員においては学生の授業への取り組みの結果を受けて、より良い授業とするための検討材料を提供することを目指しています。

Ⅰ	学生の授業への取り組み（５項目） （出席率、履修の理由、自主的な学習時間、授業の理解度　他）
Ⅱ	授業の内容と授業の進め方についての評価項目（11項目） ①動機づけ（２項目）　②教員の熱意・配慮（３項目）　③講義内容、授業目標（１項目） ④成績評価基準（１項目）　⑤授業スキル（３項目）　⑥授業環境への配慮（１項目）
Ⅲ	総合評価（１項目）
Ⅳ	オプション項目

●「学生による授業評価アンケート」実施方法の見直し

実施方法について、Web化を含め引き続き検討を行う予定です。

●アンケート結果を授業改善に繋げる取り組み

組織的な取り組みとなるように、教員個々人だけでなく各学部等にアンケート結果をフィードバックしました。また、アンケート結果に対する教員からの所見を求めるにあたって、本来の目的に沿ったものとなるようにガイドラインを策定中です。

SA（スチューデント・アシスタント）TA（ティーチング・アシスタント）制度活用状況

SAについては、2009年度からのトライアルを経て2012年度よりSA制度を導入し、TAについては、2012年度からのトライアルを経て、2013年度よりTA制度が本格的に稼働しました。全学FD推進委員会ではSA・TA制度に関するガイドラインを定めて運用を行っており、2013年度から、学期初めに「SA・TA研修オリエンテーション」を実施した他、SA・TA学生や受講生、担当教員へのアンケート結果と担当教員からの「成果報告書」を検証し、次年度以降の制度改善に活用するという取り組みを始めました。

引き続きより良い制度をめざして取り組んで行きます。

◆SA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにSA（スチューデント・アシスタント）制度を導入する。これは、学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図ることを目的とする。

◆TA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入する。これは、本学大学院学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図るとともに、本学大学院学生の教育研究職に就いた際に必要となる教育力の獲得に寄与することを目的とする。

2013年度SA制度申請授業

学　部	授　業　名	開講時期	授業担当者（責任者）
国際教養学部	大学入門セミナー	春学期	片平　　幸、和栗　珠里
	専修基礎演習	春学期	片平　　幸
社会学部	社会福祉フィールドワーク	通　期	竹内　靖子
法学部	基礎演習	通　期	大久保正人、瀬谷ゆり子、早川のぞみ
経済学部	演習Ⅲ	通　期	辻　洋一郎
	入門演習	春学期	吉田　恵子
	経済基礎A	春学期	
	労働経済論Ⅰ	春学期	
	労働経済論Ⅱ	秋学期	
	コース演習	秋学期	
	経済学特講ー労働経済の諸問題	秋学期	
経営学部	情報組織論A	春学期	牧野丹奈子
	マーケティング論A	春学期	辻本　法子

2013年度TA制度申請授業

学部・研究科	授　業　名	開講時期	授業担当者（責任者）
経済学部	演習Ⅲ	通　期	吉田　恵子
	西洋経済史Ⅰ	春学期	伊藤カンナ
	西洋経済史Ⅱ	春学期	
	歴史学～ヨーロッパ統合史	秋学期	
経営学研究科	演習（アカデミック・コース）	通　期	片岡　信之
	演習Ⅱ（日中連携ビジネスコース）		
	特殊演習		

特集 SAとして上級生から下級生へ伝え

平田 康一郎さん（経済学部４年次生）
泉野　加奈さん（経済学部４年次生）
端山 裕加里さん（経済学部４年次生）
袁　咲　恵さん（経済学部４年次生）

経済学部３年次生の辻ゼミで後輩達の学びを支える４名のSA学生に話を伺いました。

――３年次生のゼミやゼミ合宿の中でSAとしてどのような役割を果たしましたか？

●平田：ゼミ合宿では普段の授業とは違い、就職活動に関連した自己分析や面接対策など時間をかけて話すことができたので、より明確なアドバイスができたと思います

●泉野：合宿や授業に参加して、主に進路の悩みを聞いたりSAとして助言をしていました。

●端山：私は３年次生が自分自身では気づかないような視点になればと思い、違った考えや方法などについて様々な話をしたり、アドバイスをしてきました。

●袁：経済学部主催の「モチベーションアップ講演会」のサポートやゼミ合宿で後輩の自己分析のサポートをしました。

――SAとして後輩のために役立てたと思う点、反対にうまくできなかったという反省点について聞かせてください。

●平田：私自身が就職活動を約１年経験し終えて、その新鮮な情報を後輩に伝えることができたこと。やはり自分と同じ悩みや疑問を持つ人もいて、一緒に改善策を考えたりアドバイザーの役割も果たせた。後輩とは良い関係づくりができたと思うが、SA同士のコミュニケーションが不十分だったと思うので、もっと協力して後輩へのアプローチができたらより良い影響を与えられたかもしれないですね。

●端山：３年次生は先の見えない就職活動にそれぞれ不安を抱いていると思うので、私たちが話を聞いてアドバイスしたり、実体験に基づいた話をすることで就職活動をリアルに創造することができたと思います。難しいと感じたのは、彼らが抱く夢や理想をいかに潰すことなく、私たちが感じてきた現実を伝えるのかということで、話をするうえでとても悩みました。

●袁：辻ゼミは“就職活動を通して自分を知る、見つける”をテーマにしており、SAとしてゼミ合宿に参加した時、自己分析に悩んでいる後輩に、先生でも同級生でもない立場から話を聞いてあげることができたことです。

――「演習Ⅲ」の受講生だった去年と、先輩SAとして活動してきた今年を比べて、どんな点で自分の成長を実感できましたか？

●平田：去年は先生の話についていけないこともあったが、今年は就職活動を通じて、相手が何を話そうとしているのか、何を問うのか、を意識して話を聞くようになったので、今年はその意図が読めるようになった。それが後輩へのアドバイスにもつながったと思います。

●泉野：人に何かを伝えることの難しさを実感しました。自分では理解しているつもりでも、うまく伝えられなかったり、説明ができなかったりしたので良い経験になり、また、後輩への言葉遣いにも気を付けるようになりました。

●端山：自分の失敗を認められるようになったことです。就職活動でうまくいかなかった時に諦めを感じていましたが、ＳＡを務めるうちに「何がダメだったのか」を考えるようになりました。自分の失敗を後輩に繰り返してほしくないのを伝える反面、自分の学びにもしています。

●袁：自分が受講していた時よりも、後輩に教える

たい私たちの「思い」と「やる気！」

時にいかに基礎（自己分析）が大事なのかを思い知りました。と同時に自分に足りないことを発見できたことです。

――SAの役割を果たす中で自分自身のやる気はアップしましたか？それは、学業や自分の進路に何か影響を与えましたか？

●平田：SAの活動は、自分が今までやってきたことの復習とも言えます。同じことをしても１年前よりも理解度が上がって、それを後輩に伝えることが勉強になりました。後輩が自己分析をする時には、自分自身をも見直すことになり、これからの自分の人生をイメージすることができました。

●泉野：アップしたと思います。少しでも人の役に立ちたいという思いが強くなり、資格取得などに励み、社会へ出てもより頑張ろうと思えるようになりました。

●端山：３年次生と関わることで、理想の将来を目指して一生懸命頑張っていたことを思い出しました。私自身悩んでいたのですが、就職先で様々なことを学びながら新たなチャレンジをしたいと思います。後輩のサポートをしながら一緒に学ぶことができ感謝していますし、楽しい時間を過ごすことができました。

●袁：モチベーションアップ講座のお手伝いをした際に、講師の方と話をする機会があり、社会人として働く時に役立つ教えを得ることができました。主催者側に立つことで、どのように話したら相手の心に響くのかノウハウも学びました。

インタビュー

「演習Ⅲ」担当
辻　洋一郎教授

――まず、「演習Ⅲ」（３年次ゼミ）でどのようにSAを活用したのか、聞かせてください。

●辻先生：毎回のゼミや節目のゼミ合宿に４年次生がSAとして参加します。ゼミでは、例えば百貨店のアジア進出等を素材にマーケティングについて学びますが、その内容について３年次生へのマンツーマン指導や、討論の相手を務めてもらっています。

――SAを活用することで、学生にはどのような効果がありましたか。

●辻先生：SAの４年次生は後輩にとって手本（ロールモデル）であり、「未来はこうなるんだ」という像を具体的に突きつけられることで、モチベーションが上がります。３年次生はSAに積極的に質問し、成長につながる要素を吸収しようとします。またSAは、教員ではなく先輩として発言するので、教員である私の指導よりも学生が素直に受け入れるという面もありますし、SA自身も指導する立場に立つことで、相手に言うべきことをいかにして伝えるか、ということで悩み、成長していきます。

――辻ゼミの場合、SAを学生に働きかけさせることで、学生のやる気を引き出すことに成功しているようです。

●辻先生：ゼミでは、３年次生ということもあり、マーケティングについて学びながら、その学習を就職活動に活用することも目標にしています。就活にはセルフコントロールが必要で、そのための過去の洗い出しや自己分析の場で、SAと学生に徹底的に討論させます。こうすることで自分がどのような進路に進みたいのかが明らかになりますし、卒業時に自立するという目標達成が実現するわけです。ゼミでは学年間の交流・指導を行っているので、学年を超えた人間関係も濃密になります。そのためにも、SA制度が大切だと思っています。

（聞き手：全学FD推進委員　島田克彦）

全学FD講演会

【第１回】 日時：2013年10月23日（水）13：20～17：40

テーマ：■ 第1部「大人数講義法の基本」 ■ 第2部「クラスルームコントロール」

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長の小林直人先生をお迎えし、２部構成の講演会を開催しました。第１部は、学生を中心とした「良い」授業（わかりやすい／知的な緊張感のある／学生の能動的参加）を実現するための教授方法およびスキルの一環としてアクティブ・ラーニングの手法を習得するという内容です。実際に体感できるよう「文殊カード」（受講生同士が考えを書き込み、３人相互に見せ合い意見の共通点、独自性を確認するためのツール）を使ったワークが行われ、思考（Think）を複数の受講生が一緒になって（Pair）、共有（Share）するというアクティブ・ラーニングの一つの手法を学びました。また、授業の３つの要素として①コンテンツ、②スキル、③タレントが挙げられ、改善可能な①②と、「その人らしさ」である③は他から学ぶことのできないものとの説明には説得力がありました。

第２部は、グループに分かれて前半「講義における問題点の洗い出し」と後半「問題点の解決策」がワーク・ショップ形式で行われ、各グループから出された意見をまとめると以下のようになりました。

講義における問題点

- 私語
- 基礎学力の低下
- グループ活動が出来ない学生（参加しようとしない学生）
- 少人数でまとまる傾向
- 受講態度、姿勢の悪さ
- （反応がなく）理解度が掴みにくい
- 遅刻・授業中の出入り
- 出席管理の問題
- 成績評価の苦労
- 障がい学生への対応　…

問題点を分類し、個人で対応可能なもの、制度的（組織的）に対応が必要なもののうち、個人で対応可能なものについてまとめると、

問題点の解決策（個人で対応可能なもの）

Ⓐ 受講態度、姿勢の改善

- 初年度の少人数クラスにおいて学習の手順、準備態勢を訓練する
- ルールを事前に示し、警告、ペナルティを課す
- 出席を求めない・自己責任の意識を徹底させる（出席して“何をするのか”が重要）

Ⓑ 集中力の助勢と維持

- 教室内を移動しながら講義する
- グループワークを実施する
- 集中力が途切れるタイミングを捉え、課題などを与える
- 穴埋め式のプリントを配布し、授業内容をまとめさせる
- 座席の配置を臨機応変にする
- 90分の授業時間を分割・配分して授業内容を構成する

◎ＳＡ・ＴＡを共同教育者として位置づけること

講師からは、アクティブ・ラーニングは講義を補完するものでContingentに適用されるべきであること、FDを教員集団としてのDevelopmentとして理解することの重要性、今回行ったグループ・ワークは問題解決を共有化することが出来るとのお話がありました。

【第２回】 日時：2014年２月26日（水）13：30～15：00

テーマ：**「３つのポリシーに基づく内部質保証システムの構築」**

立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター長の沖裕貴教授をお迎えし、本学の教学改革にあたって非常に重要なテーマである「３つのポリシーに基づく内部質保証システムの構築」の講演会を開催しました。

大学教員の中には成績評価についての思い違いをしている人がいるが、３つのポリシーの明確化と高等教育の内部質保証により、客観的・厳格かつ公正な成績評価が可能で学生に納得のいく評価となるという主張を裏付ける内容です。国際的流れとなっている「内部質保証システム」とはPLAN、DO、CHECK、ACTIONからなる改善のサイクルで、そのキーワードは、体系性、整合性、適切性、有効性、妥当性であり、これらを鍵として３つのポリシー DP、CP、APの明示化が求められています。DP、CPの明示化のための具体的な取り組みとして「カリキュラム・マップ」と「カリキュラム・ツリー」が他大学の事例も交えながら紹介され、「評価指標」と「評価基準」のマトリックスで示される評価法として「ルーブリック評価」の手法についても学びました。参加者からは、ルーブリックを早速使ってみたいといった声もありました。

なお、今回の講演会の続編となる「カリキュラム・マップ研修（仮）」を2014年５月頃に開催する予定です。

南大阪地域大学コンソーシアムFD・SD研修とSPODによる合同研修

2013年８月１日（木）～３日（土）に、本学を会場として、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）による「次世代リーダー養成ゼミ」（第２回）と南大阪地域大学コンソーシアムFD・SD部会との合同研修を開催しました。四国地区の大学から職員と講師陣を含む26名、本学から教職員合わせて23名が参加したほか、兵庫県や南大阪コンソーシアム加盟校からも51名の参加があり、教職員の立場を越えた研修と情報交換の良い機会となりました。

2013年度全学FD推進委員会（全11回）を開催しました

2013年度は、“FD活動”の「見える化」を推進するとともにFDの研鑽に努めるため、主に以下のような課題に取り組みました。

1．「学生による授業評価アンケート」実施方法の見直し
2．「学生による授業評価アンケート」を授業改善に繋げる取り組み
3．公開授業の検討
4．SA・TA制度の改善
5．各学部FD委員会との連携強化
6．共通教育協議会との連携強化
7．FD講演会・研修会の開催
8．外部FD講演会や研修会への積極的参加
9．「FD NEWS」の発行

外部機関研修に参加しました

2013年５月18日（土）
関西地区FD連絡協議会第６回総会（@京都大学）
2013年６月15日（土）
全国私立大学FD連携フォーラム2013年度総会（@立命館大学）
2013年７月６日（土）
Benesse大学シンポジウム2013「学生が成長する教学改革」（@中之島セントラルタワー）
2013年８月17日（土）
大学生研究フォーラム「教育が日本をひらくグローバル世紀への提言」（@東京大学）
2013年９月12日（木）～13日（金）
初年次教育学会第６回大会「初年次教育から始めるキャリア教育」（@金沢工業大学）
2013年９月14日（土）～15日（日）
第10回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム「大学に求められる役割と大学間連携における未来」（@同志社大学）
2013年９月19日（木）
「学生の学習支援について－教育学の知見を基盤とした学際的なアプローチ－」（@神戸大学）
2013年10月12日（土）
第１回河合塾FDセミナー（@河合塾麹町校デルファイホール）
2014年１月26日（日）
第87回公開研究会・国際シンポジウム「学生の学びをどう記録し分析するか―MOOCs、アクティブラーニングとLearning Analyticsをめぐって―」（@京都大学）
2014年２月19日（水）
障がい学生支援に関するFD／SD研修会（@京都産業大学）
2014年２月22日（土）～23日（日）
大学コンソーシアム京都「第19回FDフォーラム」（@龍谷大学）

2013年度全学FD推進委員会構成メンバーを紹介します

〔委員長〕竹原　憲雄（～2013.9.18）　今木　秀和（2013.9.19～）
〔委　員〕串田　久治（国際教養学部）、安原　佳子（社会学部）、早川のぞみ（法学部）、津田　直則（経済学部）、谷口　照三（経営学部）、島田　克彦（共通教育協議会選出、経済学部）
〔事務局〕宮谷真由美（学長室）、辻川　和子（学長室）

桃山学院大学
St. Andrew's University

桃山学院大学全学FD推進委員会
〒594-1198　大阪府和泉市まなび野１－１
TEL　0725-54-3131
e-mail：zfd-momo@andrew.ac.jp

発行日／2014年３月26日